

目次

序章	昭和二十三年 六月二十八日	7
	——筆者と福井地震——	
第一章	長兄・政夫の被災体験	27
第二章	三兄・徹夫の被災体験	47
	——閑話休題——	
	一、徹夫の被災	50
	二、生家の惨状と村落合同葬	57
第三章	山村地区檀家の救援	67
	一、川上村総代・佐野栄作	69
	二、仮設小屋の建設	72
第四章	福井市と坂井郡の惨状	79

(図版) 主たる被災地区

- 一、福井市の惨状と農村 81
- 二、義妹の被災 85
- 三、京大医学部付属病院 89
- 四、吉岡、西山両氏の被災体験 96

第五章

「福井地震」についての資料

- 一、「福井地震」の資料 103
- 二、災害の全貌 108
- 三、鉄道その他の被害と復旧状況 117

——「福井市史」の資料による——

第六章

「地震予知」の現状

- 一、「福井地震」についての予知 123
- 二、地震直前予知研究の流れと頓挫 125
- 三、戦後の震災の歴史 130

第七章

「福井地震」からの教訓

- 一、体験と手元の資料から 137
- 二、「モノミナコワレ」(「ゆきのした文化協会」編、
平成七年三月十五日発行) 142

- (一) 「救護隊長実記」東京・城戸 昇。
- (二) 「母の幼なき日の記録として娘たちに」福井市・吉村直江。
- (三) 「地震列島に生きて」大野市・大久保英子。
- (四) 「測量士としての体験を考える」長岡京市・関 剛。
- (五) 「加藤忠夫氏のレクチャーから」福井市・本谷信雄。

終章

「内陸直下地震」への対処
導入——空襲と地震——

- 一、居住家屋の資材と構造について 159
 - 二、日常の準備 160
- (イ) 貴重品類の処置

救急箱、保存食などの準備	(ロ)	162
大工道具類の用意	(ハ)	162
三、自己防衛と被災者の救助		162
自己防衛	(イ)	162
家族、同居人の救助	(ロ)	162
四、緊急避難所		163
都市の住宅地	(イ)	163
救助用工具類	(ロ)	163
公共の避難場所	(ハ)	163
五、原子力発電所と地震		165
あとがき		170